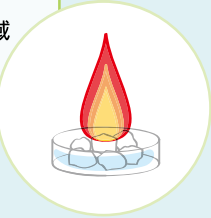
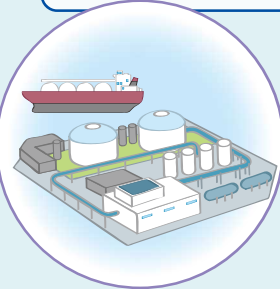


# 県の水素ポテンシャル

**未来の国産エネルギー「メタンハイドレート」が眠る 但馬沖**  
 国産エネルギー資源の安定供給に向け、メタンハイドレートの実用化を研究中  
 →メタンハイドレートの実用化により、但馬地域をはじめ県内での水素利活用拡大に貢献



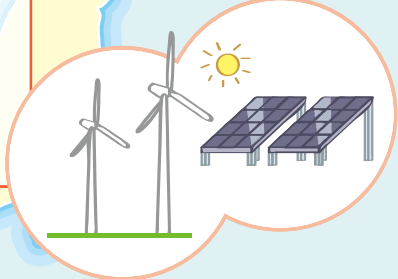
**エネルギー産業等が集積する 播磨臨海部**  
 火力発電所やLNG基地の立地。鉄鋼業、化学工業等、水素ユーザーが集積  
 →将来的な水素発電の導入を見据え、国内水素拠点としての発展可能性 工業用途の水素需要拡大



**日本有数の大都市圏 神戸・阪神地域**  
 人口、企業が集積。水素ステーションが立地し、水素の先行プロジェクトも展開される水素先進地  
 →FCVや燃料電池の導入、水素産業の振興等を先導して進め、水素利用の拡大に貢献 県内他地域へも波及



**エネルギー自立の島 淡路島**  
 あわじ環境未来島構想のもと、エネルギーの自給自足をめざし、再エネ導入を推進  
 →豊富な再エネを活用した水素製造とエネルギー地産地消モデルの実現



# 水素社会ってなに？

— 兵庫水素社会推進構想 —

温暖化をはじめ地球環境問題が深刻化する中、新たなエネルギーの選択肢として、「水素」が注目されています。多種多様なエネルギー源から作ることができ、利用段階で二酸化炭素を排出しない究極のクリーンエネルギーである水素。兵庫県では、水素を生活の様々な場面で利活用する“水素社会”の実現に向け、取組を進めます。



## お問い合わせ先

- 「兵庫水素社会推進構想」に関すること  
 企画県民部ビジョン局ビジョン課 TEL.078-362-9010 FAX.078-362-4479 vision@pref.hyogo.lg.jp
- 技術開発支援等に関すること  
 産業労働部産業振興局新産業課 TEL.078-362-3054 FAX.078-362-4273 shinsangyo@pref.hyogo.lg.jp
- 県内への企業立地に関すること  
 産業労働部産業振興局産業立地室 TEL.078-362-4154 FAX.078-362-4273 sangyorichi@pref.hyogo.lg.jp
- 燃料電池自動車、水素ステーションに関すること  
 農政環境部環境管理局水大気課 TEL.078-362-3287 FAX.078-362-3966 mizutaiki@pref.hyogo.lg.jp
- 燃料電池の導入支援に関すること  
 農政環境部環境管理局温暖化対策課 TEL.078-362-3284 FAX.078-382-1580 ondankataisaku@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県



## 県のめざす水素社会の姿 (2050年頃)

### 環境に優しい脱炭素な社会

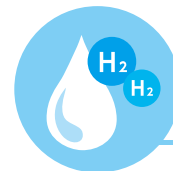
- CO<sub>2</sub>排出量が低減し、温暖化対策に貢献
- 水素の蓄エネ機能等を活用し、高効率なエネルギー利用が実現

### 県民の快適で安心な暮らしが守られている社会

- 燃料電池等の活用により、非常時にも安定的にエネルギー供給ができ、安心な暮らしが実現
- エネルギーセキュリティにも寄与

### 経済の好循環が生まれ、産業や地域が活性化している社会

- 企業集積や新規参入が促進され、地域経済が活性化



## 水素の意義

### 環境負荷の低減

水素は利用段階でCO<sub>2</sub>を排出せず、温暖化対策に貢献。再エネ等を活用することで、トータルでもCO<sub>2</sub>フリーのエネルギー源となり得る。

### エネルギー供給源の多層化・多様化

水素は再エネ等多様なエネルギー源から製造可能。特定のエネルギーに依存しない多様なエネルギー構造への変革、エネルギー供給の安定化が図れる。



### 産業振興・競争力強化

水素分野は、成長が見込まれる先端分野であり、関連産業のすそ野も広い。県内に高度な技術力を有する企業も多く、企業集積や新規参入等による地域経済の活性化も期待される。

### 非常時における安心確保

停電時でも燃料電池やFCV等を活用して電力の継続供給が可能。災害等の非常時における安心確保に貢献。



## 水素社会を実現するための取組の方向性

### 水素利活用の拡大・社会への普及を図る (短期的取組：～2025年頃)

FCVや電気・熱を有効利用する燃料電池など実用化段階にある水素アプリケーションの普及を進めるとともに、水素産業への参入支援や県民への意識啓発等を進め、“水素社会”の実現に向けた布石を打つ。

#### 施策1 燃料電池自動車(FCV)の普及促進

- 燃料電池自動車の導入支援
- 水素ステーションの整備・運営支援
- 燃料電池モビリティ(バス、トラック、フォークリフト等)の導入支援
- さらなる普及促進に関する国提案

#### 施策2 燃料電池(家庭用、業務・産業用)の普及促進

- 家庭用燃料電池の導入支援
- 業務・産業用燃料電池の導入支援

#### 施策3 水素関連分野の技術開発や新たな事業創出等への支援

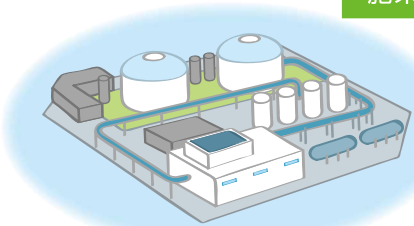
- 技術開発、参入促進等への支援
- 事業機会拡大への支援

#### 施策4 水素を活用したエネルギー自立度の向上

- 県有施設等への燃料電池の積極導入
- 水素の蓄エネ機能等を活用した再エネ利用モデルの検討

#### 施策5 水素への理解向上に向けた普及啓発

- セミナーや体験学習会等の開催
- 各種広報媒体を通じた情報発信
- 県民参加の仕組みづくり



### 水素大量消費時代を見据えた対応を図る (中長期的取組：～2040年頃)

海外からの水素調達によるコスト低下や国内再エネを活用した水素供給システムの構築等により、平常時の利活用だけでなく非常時の電力確保など、生活の至る所に水素が普及しつつある。こうした水素を核とした新たな環境社会に即した取組を進める。

#### 施策1 低コストな水素利用の実現

- 水素受入基地の立地
- 水素発電の導入

#### 施策2 エネルギー自立型社会の実現

- 地域資源を活用したエネルギー自立モデルの実装
- 技術開発の促進と水素利活用の拡大  
(水素製造技術等の開発促進、純水素型燃料電池や燃料電池モビリティ〔船舶、列車等〕等の導入)

#### 施策3 産業分野の低炭素化の推進

- 低炭素な水素を活用した事業拡大、新事業創出等への支援
- 熱/産業プロセスにおける水素活用支援

### 水素社会の浸透を図る (2040年頃～)

低炭素な暮らしが実現しつつある中、各地域の取組の面的拡大を図る。

水素サプライチェーンの確立をはじめ、水素発電やPower-to-Gas等、需給両面で進展してきた各地域の取組を面的に拡大させ、全県への浸透を促す。



県のめざす水素社会の実現